

# 「ワイルドライフキャンプ2015」

## ★事業の概要★

### 事業のねらい

1. 北海道の広大な土地と豊かで厳しい自然の中で生活体験や様々なプログラムへの挑戦をとおり、参加者に「互いを認め合う心」と「たくましさ」を兼ね備えた、次代を担うリーダーを育成することを目的とする。
2. 「自然体験」や「生活体験」を中心とした野外活動プログラムによる参加者の人間形成を目的としたプログラム開発事業とする。

### 期 日

平成27年8月3日（月）～ 8月10日（月）

### 会 場

国立大雪青少年交流の家 及び その周辺

### 対 象 者

全国の小学校3年生～6年生 16名 中学生4名

### 参加者数：参加集人数

20名（小学生16名 中学生4名）：20名

### 講 師

浪岡 保男 氏（上川中部森林管理署長）  
国立大雪青少年交流の家職員

### 日 程

		13:30		14:00													
8/3 (月)			受付	開 会 式	生活の場を整える テント張り 仲間づくりゲーム	夕食作り 夕食	休憩	グ ル プ 会 議	入浴	就寝							
		6:00		6:30		8:30		16:30		19:00		20:00		21:00		22:00	
8/4 (火)	起 床	朝食作り 朝食	水辺を歩く 不動の滝周辺の川を歩く(3km)				夕食作り 夕食	休憩	ミ ニ グ レ イ	入浴	就寝						
8/5 (水)	起 床	朝食作り 朝食	丘を歩く 模範牧場から野鳥の森までの道を歩く(15km)				夕食作り 夕食	ナ イ ト ハ イ ク	ミ ニ グ レ イ	入浴	就寝						
8/6 (木)	起 床	朝食作り 朝食	岩場を歩く 交流の家から望岳台までの原生林コースを歩く(11.8km)				夕食作り 夕食	休 憩	ミ ニ グ レ イ	入浴	就寝						
8/7 (金)	起 朝 床 食		山を歩く 富良野岳を登る(標高1912m)				夕食作り 夕食	休 憩	ミ ニ グ レ イ	入浴	就寝						
8/8 (土)	起 床	朝食作り 朝食	マイ・プラン 自分たちで計画した1日を楽しむ				夕食作り 夕食	キ ャ ン プ ア フ ァ ィ ヤ ー	ミ ニ グ レ イ	入浴	就寝						
8/9 (日)	起 床	朝食作り 朝食	森をつくる	昼食作り	キャンプ場片付け パーティー準備	さよならパーティー	ミ ニ グ レ イ	入浴	就寝								
		9:00		12:00		13:00											
8/10 (月)	起 床	朝食作り 朝食	出発式	昼食 (レストラン)	解散												

# ★プログラム紹介★



## 「水辺を歩く」

森の中を流れる不動滝川を2キロ遡って歩いた。清流の冷たさや川の流れを体で感じ、自然の持つ強さと楽しさを体験した。



## 「丘を歩く」

富良野岳登山に向けて集団登山の注意点や登山時の隊列の練習を取り入れながら、8キロの丘を歩く中で集団を意識した。



## 「岩場を歩く」

前日に続いて岩場のハイキングコースを登山コースに見立て、歩行訓練を行う中で互いを認め助け合った。



## 「山を歩く」

前日の雨で足場も悪い中、グループ内で励まし合い、1人の脱落者も出すことなく富良野岳に登頂した。



## 「マイ・プラン」

キャンプを通して班で話し合いを重ね、当日は丸一日を自分たちで立てた計画で楽しんだ。燻製やパンを作ったり、それを持ってハイキングに出かけるなど、班毎に結束する様子が随所に見られた。



## 「森をつくる」

講師から森がもたらす人間への影響と森を構成する自然について学び、自然を大切にする気持ちを確認した。ミズナラの小さな芽が大きな木と育っていく姿を想像しながら、植樹を行った。

## 企画・運営のポイント

少子化傾向により、兄弟姉妹の関係が少なくなった現代の子供たちに、長期事業の特色を活かし、より多くの世代から影響を受けるよう、子供たちを異学年でグループ構成した。

また、日常の便利な生活から離れ、非日常的な生活の中で自分についての発見や、認めてくれる仲間、家族の大切さについて気づかせ、人間のつながりを体験させることでコミュニケーション能力の低下や実体験をともなう学びの不足などの現代的な課題に対応した。

## 事業を終えて(成果と課題)

山岳に登頂するという大きな目標を達成するために、前半はチームワークや登山に関わるノウハウを身に付けた。後半はそのチームワークを生かし、年上の子を中心に自分たちの力で生活するための活動へとつなげることができた。

長期に渡るキャンプのため、スタッフの体調面や精神面の疲労が大きく、なることから、事前の準備を十分に行い、当日に備える必要がある。

## 今後の方向性

個々のプログラムは、ワイルドライフキャンプ以外の事業においても実施可能な内容のため、効果的に活用できるよう成果をまとめ、普及に努める。